

生活科学習指導案

日 時 平成29年2月27日（月）2校時
児 童 1年生
授業者
授業場

1 単元名「パワーアップのおもいで」

2 単元の目標

1年間の生活を振り返り、自分でできるようになったこと、頑張ったこと、役割が増えたことなどがわかるとともに、友達や多くの人々との関わりながら成長することができた自分自身に気づき、2年生に向けて意欲的に生活することができるようにする。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、「自分の成長」を扱った単元で、次の3つのねらいがある。1つ目は、小学校での1年間の生活を振り返り、自分でできるようになったこと、頑張ったこと、役割が増えたことなどに気付くことである。2つ目は、自分の成長や頑張りの背景には、自分とともに活動してくれた友達を中心に、様々な人の存在があることに気付くことである。3つ目は、「こんなことができた」「来年はもっと…」という自信や意欲を持って生活できるようにすることである。

(2) 目指す児童・生徒像

本単元では、小学校生活1年間の自分の生活や頑張ったことについてよく思い出し、「こんなことができた」「頑張ってよかった」などの思いを持ちながら、「おひさまメダル」に自分の思い出や頑張りを書き残し、メダルをためていこうとする中で、自分自身の成長に気付いていく姿を目指していく。また、友達の頑張りを認めて「ともピカメダル」を渡す活動を通して、友達から認めてもらうことで自分の頑張りをさらに実感したり、友達と一緒に頑張った自分、学級みんなと力を合わせた自分自身に気付いたりする姿を目指していく。

(3) 指導観

以上を踏まえ、本単元では、自分自身の成長を実感したり、学級の友達や様々な人々と関わりながら生活していることに気付いたりする姿を促すために、1年間でいろいろなことがあり、それぞれの場面で頑張った自分自身に興味を持つことができるよう出合いの工夫をした上で、「おひさまメダル」を貯めていく活動を行っていく。友達の活動に目を向けることで新たな自分自身への気づきを得ることができるよう、友達に「ともピカメダル」を渡す活動を行い、最後に学級全体の成長を感じながら、国語「おもいでしてかこう」でまとめた内容を決めたり、1年生最後のお楽しみ会の内容を決めたりしていく単元の構成をする。以下に、研究に関わる具体的な手だてを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

本単元における「見方・考え方」について以下のように捉えている。

○本単元で発揮したい「見方・考え方」

- ・1年間の生活を、学校や学級の中での自分の役割や頑張りという視点で捉える。
- ・自分と友達のメダルの数や内容を比べたり、自分が書きたいいくつかのメダルの内容を比べたりする。
- ・考えたことを基に、「おひさま新聞」の内容や「お楽しみ会」を楽しくするためのアイデアを考える。

○本単元で高めたい「見方・考え方」

- ・友達の頑張りや思い出を自分との関わりで捉える。
- ・自分のメダルと友達からもらった「ともピカメダル」の内容を比べる。
- ・1年間の生活の中から自分が頑張ったことを選び、その頑張りによって金・銀・銅に分ける。
- ・友達のメダルの内容や視点を自分の活動に生かしたり、友達の考えを結び付けて自分のよさや友達のよさに気付いたりする。

○2年生以降に繋がる「見方・考え方」

- ・1年間の生活を振り返り、自分でできるようになったこと、頑張ったこと、役割が増えたこと、多くの人々との関わりながら成長することができたことに気付く。(2年生活科)
- ・1年間の生活を振り返り、考えたことを国語や学級活動に生かす。(総合)
- ・自分と友達との関係、自分が友達や学級、学校の集団の中で支えられて生活していることに気付く。(社会科)

上記のような「見方・考え方」を「対話的な学び」を通して引き出していくために、本単元では一人一人が思いや願いを持って活動した後に、自分の頑張りを書いたメダルや友達からもらった「ともピカメダル」を手に取りながら、メダルの内容や思ったことや気付いたことなどを交流する場面を設定する。単元を通して、「どんなことを書いたか」「どんなメダルをもらったか」など、メダルやワークシートの内容を問うことから始めるが、子供たちの発言に対して「どうしてそう思ったの?」「どうして『うれしかった』の?」「どうして『銅ピカメダル』に書いたの?」「メダルをもらってどう思ったの?」などの問い返しを行うことで、1年間の生活と自分との関わりを捉えることができるようにする。その上で、「○○君は～だったみたいだけれどみんなはどう?」「同じことを書いた人はいる?」などと子供たちの発言を繋げたり、見方・考え方に繋がる大事な視点を含む発言について「どう思う?」「みんなはどう?」などと問い、発言と自分との関わりについて考えるきっかけをつくったりしていく。

また、メダルを集めたり、やりたいことを考えたりしていく子供たちの思いや思考の段階に合わせて話合いの内容を整理したり、大事な視点を焦点化したりしながら話合いを進めていくようにする。

4 評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
ア 自分自身の生活や成長に関心を持つとともに、自分自身の生活や成長を支えてくれた友達に感謝の気持ちを持ち、メダルづくりやメダル渡しを通して自分の成長を振り返ろうとしている。	ア 1年間の生活について自分との関わりという視点で振り返ったり、自分の生活や成長を支えてくれた友達との関わりについて考えたりし、考えたことをメダルに表現している。	ア 自分でできるようになったこと、頑張ったこと、役割が増えたことなどに気付いている。
イ 2年生の生活への期待や成長への願いを持って、意欲的に生活しようとしている。	イ 自分の成長と2年生の生活に希望を持ち、これからの生活について考えている。	イ 自分の成長を支えてくれた人々の存在に気付いている。
		ウ 自分自身のよさがわかり、これからも成長できることに気付いている。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
<p>4月から現在までの写真を提示した上で「金ピカメダル」の見本を見せることで、児童の「やってみてみたい」という気持ちを引き出す。</p> <p>生活科の学習についての掲示、1年間の学校生活の写真をまとめた「おひさまアルバム」、1年間の作品を収納した「作品ボックス」を教室に準備し、1年間の生活を想起しやすい環境をつくる。</p> <p>メダルは、自分の頑張りや心に残ったことを書く「金ピカメダル」「銀ピカメダル」「銅ピカメダル」と、友達の頑張りや感謝の気持ちを書く「友ピカメダル」を用意し、児童の思いに合わせて選べるようにする。</p> <p>「思い出しタイム」「メダルタイム」での児童の活動の様子を見取り、個別の声かけや問い返しをすることによって、自分の思いをはっきりさせたり、友達の活動に目を向けたりすることができるようにする。</p> <p>「振り返りタイム」を設定し、思ったことや次にやりたいことを書くようにすることで、次時の活動への見通しや意欲を持つことができるようにする。</p> <p>児童の様子を見取り、個別の声かけや問い返しをすることによって、自分の思いをはっきりさせたり、友達の活動に目を向けたりすることができるように</p> <p>思ったことや考えたことを書く「振り返りタイム」を設定し、これからの生活への思いが膨らむようにする。</p>	<p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の小学校生活を写真で振り返り、4月からの生活で頑張ったことや思い出がたくさんあることに気付く。 ○メダルの見本を見て、頑張ったことや心に残ったことをメダルに表す活動について見通しを持つ。 ○「金ピカメダル」に頑張ったことや心に残ったことを一つだけ書く。関ア <p>2～6 時間目 ※本時は4時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メダルに書くことやメダルを書くための手がかり、メダルの種類などについて知り、これからの学習の見通しを持つ。(2時間目のみ) 【メダルに書くこと】 ・頑張ったこと ・心に残ったこと 【メダルを書くための手がかり】 ・作品ボックス ・掲示物 ・おひさまアルバム 【メダルの種類】 ・金ピカメダル ・銀ピカメダル ・銅ピカメダル ・友ピカメダル(友達の頑張りや感謝の気持ちを書く) ○1年間の生活を振り返って、頑張ったことや心に残ったことをメダルに書いたり、友達に渡したりする。 ・思い出しタイム、メダルタイム ○「思い出しタイム」「メダルタイム」での自分たちの活動について学級で交流する。 ・お話タイム ○思ったことや次にやりたいことなどについて振り返りをする。 ・振り返りタイム 関ア 思ア 気ア 気イ <p>7～8 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メダルの内容を交流しながら、国語「おもいだしてかこう」で作成する『おひさま新聞』の内容について考える。 ○「頑張ってきたことを生かして」「さらに成長するために」という視点で、お楽しみ会でできることを考える。 関イ 思ウ 気ウ 	<p>メダルの内容や思ったこと、気付いたことなどを交流する場面を設定し、児童の実態や思いの高まりに合わせて以下のような問いや問い返しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんなことを書いたの？」 ・「どんなメダルをもらったの？」 ・「どうしてそう思ったの？」 ・「どうして『うれしかった』の？」 ・「どうして『銅ピカメダル』に書いたの？」 ・「メダルをもらってどう思ったの？」 ・「○○君は～って言っているけれど、どう？」 ・「同じことを書いた人はいる？」 ・「みんなはどう思う？」 ・「(次の時間)もっと書きたいことはある？」 <p>話し合いの内容を整理したり、大事な視点を焦点化したりしながら話し合いを進めていく。その際、児童の実態や思いの高まりに合わせて以下のようなことに注目して考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メダルに書く内容 ・自分のメダルの数 ・「ともピカメダル」の数 ・メダルの内容 ・金、銀、銅の違い ・友達の頑張り ・学級みんなの頑張り <p>話し合いの内容を整理したり、大事な視点を焦点化したりしながら話し合いを進めていき、自分の考えや学級の考えが明確になるようにする。</p>

6 本時について(4/8時間目)

(1) 本時の目標

1年間の生活を振り返ってメダルを書くこと、友達とメダルのやりとりをすることを通して、自分の生活について様々な視点で考え、もっと書きたいことを見付けることができる。

(2) 本時における研究の視点

本時においては、主に研究の手立て**1**を講じていくことになる。

児童は前時までの学習において、メダルを集める活動を繰り返す中で自分の生活を振り返る視点やメダ

ルに書けそうな出来事がたくさんあることに気付いている。また、「友ピカメダル」をやりとりする中で、友達よさを見付けたり、一緒に活動していた自分自身に目を向けたりしている。本時では、さらに幅を広げながら1年間の生活を振り返り、友達の発言に耳を傾けて自分との関わりを考えることができるよう、問いや問い返しを行う。また、話合いの内容を整理したり、大事な視点を焦点化したりすることで友達との対話を通して得た気付きを次時の活動に生かすことができるようにしていく。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 1年間の生活を振り返って、頑張ったことや心に残ったことをメダルに書いたり、友達に渡したりする。～思い出タイム、メダルタイム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> メダルをあつめたり、ともだちにわたしたりしよう。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は「金（銀，銅）ピカメダル」を増やしたいな。 ・〇個目指して頑張ろう。 ・友達に「友ピカメダル」を渡したいな。 ・バランスよくメダルを作りたいな。 ・～を頑張ったことを書きたいな。 ・何を書こうかな。 ・「おひさまアルバム」を見てみよう。 ・掲示物を見に行こう。 ・作品ボックスの中身を見てみよう。 </div> <p>2 「おもいだしタイム」「メダルタイム」での自分たちの活動について学級で交流する。～お話タイム</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・金（銀，銅）ピカメダルをたくさん集めたよ。 → 私〇メダルを集めたいな。だって…。 ・〇〇君から「～がすごいね。」って言われてうれしかったよ。 → 僕も〇〇さんから同じことを言われたな。 ・私も同じようなことを書いてあげたよ。だってね、〇〇君も～で…。 ・金（銀，銅）ピカメダルに～のことを書いたよ。 → あの時確か～だったよね。懐かしい。 ・そういえば、僕も頑張ったな。次の時間に書こうかな。 ・同じことを書いたな。だけど、ここがちょっと違うぞ。 ・～だから銀ピカにしたよ。 </div> <p>3 思ったことや次にやりたいことなどについて振り返りをする。～振り返りタイム</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・～でこんなことを頑張ったのを思い出しました。 ・次は～について書きたいと思います。 </div>	<p>○前時に共有したことについて確認し、「思い出しタイム」「メダルタイム」にやりたいことをイメージするよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <input type="checkbox"/> 児童の活動の様子を見取り、個別の声かけや問い返しをすることによって、自分の思いをはっきりさせたり、友達の活動に目を向けたりすることができるようにする。 A-② </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <input type="checkbox"/> メダルの内容や思ったこと、気付いたことなどを交流する場面を設定し、児童の実態や思いの高まりに合わせて問いや問い返しを行う。 手立てI <ul style="list-style-type: none"> ・「どんなことを書いたの？」 ・「どんなメダルをもらったの？」 ・「どうしてそう思ったの？」 ・「どうして『うれしかった』の？」 ・「どうして銅ピカに書いたの？」 ・「メダルをもらってどう思ったの？」 ・「〇〇君は～って言っているけれど、どう？」 ・「同じことを書いた人はいる？」 ・「みんなはどう思う？」 ・「(次の時間) もっと書きたいことはある？」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <input type="checkbox"/> 話合いの内容を整理したり、大事な視点を焦点化したりする。 手立てI </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <input type="checkbox"/> 「振り返りタイム」を設定し、思ったことや次にやりたいことを書くようにすることで、次時の活動への見通しや意欲を持つことができるようにする。 B-① </div>	<p>【メダルの内容】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>▲たくさん書くことができている児童のメダルを見せてもらい、書きたいことを具体的にイメージすることができるようにする。</p> </div> <p>【発言】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>▲問い返しの中で指名し、自分はどうだったか考えることができるようにする。</p> </div> <p>【振り返りカード】</p>

本單元における気づきの質の高まりのルーブリック

自分自身への気づき			↑ 気づきの質の高まり
自覚的	<ul style="list-style-type: none"> • 2年生になったら、～が楽しみだな。こんなふうに頑張ろう。 • 2年生になっても、～頑張りたいな。 • みんなでいろんな思い出をつくってきたね。私も頑張ったな。 • 友達がたくさんほめてくれたよ。 • いろんなことができるようになったよ。 <p style="text-align: right;">など</p>		
	思考を伴うもの	<ul style="list-style-type: none"> • あの時学級（学年）のみんなと頑張ったな。 • ともピカメダルをもらって、こんなことを頑張ったなって思い出せたよ。 • ともピカメダルに書いたことは、自分のメダルにも書けそうだよ。 • 友達とこんなことをしたのが思い出だから、ともピカメダルに書こう。 • 僕も同じことについて書いたけれど、気持ちやメダルの色が違うな。 • 集まったメダルは～だから、○メダルにも書いてみよう。 • 集まったメダルは～だから、～のことも書いてみよう。 • 私も○○をやったな。その時はこんな気持ちになったな。メダルに書けそうだよ。 • ～の時、こんなことをしたから（こう思ったから）○メダルにしよう。 <p style="text-align: right;">など</p>	
感覚的	<ul style="list-style-type: none"> • 友達はこのことで頑張っていたな。ともピカメダルに書こう。 • ～では、初めて～したな。○メダルかな。 • ～した時のことはよく覚えているよ。○メダルにしよう。 • ～を頑張ったな。○メダルにしよう。 • ～が楽しかったな。○メダルにしよう。 • ～がうれしかったな。○メダルにしよう。 • ～が楽しかったな。○メダルにしよう。 • あの時、こんな気持ちになったな。 • あの時、楽しかったな。 • あの時、こんなことがあったな。 <p style="text-align: right;">など</p>		
無自覚な気づき			